



2019年7月29日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第171号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- ペルーのクロイワ先生の訃報
- 中南米地震工学研修閉講～構造技術者グループ～
- 第17回世界地震工学会議の助成金について
- ペルーの元研修生の訪問

## 研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## ペルーのクロイワ先生の訃報

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

私たち、IISEEのスタッフ一同は、ペルーのフリオ・クロイワ・ホリウチ先生のご冥福を心からお祈りいたします。2019年7月9日にペルー地震工学界の重鎮のクロイワ先生がご逝去されました。

突然の悲報に深い悲しみを覚えます。

クロイワ先生は1961-62地震工学コースを卒業、帰国された後、ペルーにおける地震工学の振興と発展に生涯尽力されました。ペルーのマスコミからは、「地震の先生」と親しみを込めて呼ばれ、また工学関係者からは、「ペルーの地震工学の父」と尊敬を込めて呼ばれておられました。ご遺族の皆様にご心よりお悔やみ申し上げます。



フリオ・クロイワ・ホリウチ先生 (出典: El Comercio)

## 中南米地震工学研修閉講～構造技術者グループ～

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

## 論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



楽しむのは今です。



中南米研修における構造技術者グループの9名は、各々が母国で抱える課題に対して、5月16日(木)からつくばで行われてきた研修での知見を生かし、帰国後に概ね半年から一年で取り組むことができる行動計画を策定し、その内容を7月11日(木)に発表しました。この発表をもって、つくばでの研修は終了し、7月15日(月)からは、エルサルバドル共和国に移動して、枠組み組積造やコンクリートブロック造の実験演習を中心とした研修を受け、7月26日(金)に構造技術者グループの研修が閉講しました。

今回の研修生を含め、2014年からスタートした中南米地震工学研修の修了生は、中南米諸国11カ国から92名になりました。これまでの研修修了生のご活躍により、中南米諸国での耐震建築の普及がより一層促進されることを期待しています。



エクアドルのヴィクトルさん



ニカラグアのメンドゥーサさん



木造モデル住宅の見学



実験の様子

## 第17回世界地震工学会議の助成金について

国際地震工学センター長 横井 俊明

第17回世界地震工学会議(17WCEE)のURLの中に現地組織委員会によって提供された、発展途上国の若い世代を対象とした助成金の情報が見つかりました。

元研修生の方で第17回世界地震工学会議(17WCEE)に参加を希望されている方はチェックしてみてください。こちらのURLに条件が載っています。

<http://www.17wcee.jp/call.html>

助成金の情報についてはこのURLの一番下に記載されています。

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

[iiseenews@kenken.go.jp](mailto:iiseenews@kenken.go.jp)  
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

## ペルーの元研修生の訪問

国際地震工学センター 研究員 鹿嶋俊英

2019年6月18日に1987-88年の地震工学コースに参加したペルー出身のダニエル アバント コルドバさんがIISEEを訪問してくださいました。一年コースを終えて帰国したあと、再来日して筑波大学で修士を取り、しばらく日本で働いていらっしゃいました。現在はアメリカの総合化学品メーカーでご活躍されています。私たちはいつでも元研修生の訪問を歓迎いたします。日本に来る機会がございましたら、躊躇せずに私たちにお知らせください。

